



「金蘭千里学園の 大学進学状況」

尚友会会長

岸本 大三郎

金蘭千里学園は四年前に創立五十年の節目を通過し第二の半世紀をスタートしています。五十年間に築き上げた伝統を継承しつつ未来を見据えた革新をいま正に実行しています。

卒業生数は一七〇人前後と創立当初から余り変わっていませんが大学進学状況には大きな変化が見られます。一期、二期の高校卒業生では十名にも到らなかった国公立大学現役合格者が年々増加し近年では卒業生の約三分の一にあたる五十名以上が合格しています。（現・浪合計では約二分の一の八十五名前後が国公立大学に合格。）特色として「中高六年間での偏差値向上」が群を抜いており、「難関国公立大学への高い合格率」においても注目される存在になっています。

全国的な医学系志向の高まりもあって学部別においては「医学系」（医学・歯学・薬学）の構成比が三割近くまで上昇し、「文系」、「理工系」に肩を並べている状況です。この点も金蘭千里の新たな特徴となりつつあります。人間性教育に加え、創立後短期間のうちに周囲の注目を集める進学実績を実現できたのは、金蘭千里建学の精神に基づいてご指導頂いた佐藤学園長を初めとする歴代の恩師の皆様のお陰と深く感謝致します。昨年四月に辻本理事長は学園長職に就かれ、今後は大中章新校長、中村聡太新教頭が先頭に立って新たな半世紀の校風を築いて行かれることを大いに期待しています。

「ホームカミングデイ」は本年六月十五日（土）に開催されますが、例年のように辻本理事長のお話や在校生の皆さんとの交流の場も企画しています。合唱部や吹奏楽部による演奏も準備して皆さんをお待ちしています。金蘭千里学園の革新と成長がどのように進んでいるのか、皆さんの目と耳で確かめて頂ければ幸いです。



「あいさつ」

金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

平成三十一年三月十四日、増田哲雄先生が逝去されました。平成八年、私は、四代目宇野正男校長先生から校長職を引き継ぎ、増田哲雄先生に教頭をお願いしました。先生には、建学の精神の継受と促進において支えていただき、さらに非常勤講師、法人の評議員として、教育に学園運営に勤しんで頂きました。私の校長退任の年度と時を同じくして、先生は逝かれました。唯々感謝しまして、ご冥福をお祈り申し上げます。

二〇二〇年度大学入試の英語のテストは、読む、書く、聞く、話すの四技能が評価されます。また、**Society 5.0**がマスコミを賑わすでしょう。人間力としてコミュニケーション能力が問われています。

日常生活は、読む、書く、聞く、話すによって成り立っています。その内、興味深いことは、**読むと聞く**ことです。

読むことは、文字を読むだけでなく、人の表情をよんだり、詩の空白の行間を読んだり、景気の行方を読んだり、言葉にし難いものを読んでいます。読むという言葉は、はつきり言葉で整理できるものだけを対象とせず、いわゆるノンヴァーバルなものをとらえる広がりを持つていると言えます。

聞くという言葉も同じように、声や音を聞くだけでなく、沈黙を聞いたり、松籟（松に吹く風）を聞いたり、香を聞いたり、人間の意識下に訴えるものを自分にインプットする働きを表現します。このように読むこと、聞くことは、随分と大きな広がりを持っています。このように、**読むと聞く**ことによって、豊かな人間性を獲得して、コミュニケーション能力を開発しなければならぬと思っています。

豊かな言語能力を養うためには、豊かな文学に触れる以外方法がありません。（小川洋子）

金蘭千里は、建学の精神を守り、皆さんの思いを受け継いで運営しています。先輩に来ていただいたて、後輩の活動に触れて頂きたい。

理事長室は、いつも開いています。どうぞお越しください。

平成三十一年四月三十日



「二年目を迎えて」

金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

昨年四月に校長職を拝命し、一年が経過しました。正直、ルーティーンをこなすのに終始したようにも感じられますが、今後も本校の発展のために微力を尽くす所存ですので、どうぞご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、尚友会の皆様には、日頃より本校のためにお力添えをいただき、有難く厚く御礼申し上げます。私は、母校へ舞い戻って早三十五年目となりました。皆様ご存じのように、独自の教育を行う古き良き金蘭千里から、イギリス海外研修、外務省現役外交官講演、アメリカ総領事館講演、ファミリーコンサート、校外学習など諸行事の導入を経て、創立五十周年改革として、新制服の制定、クラブの大幅増設、文化祭・体育祭の充実、キャンプ・自然研修の充実、学習記録ノートの導入などを行いました。その結果、生徒の活躍の場が増え、学校がより活性化したように感じています。

昨年度新たに導入したものとしては、中三の自然研修（信州）、生徒会、クエストカップへの参加が挙げられます。自然研修は中高ともに一回ずつとなり、生徒会としては、朝の挨拶運動、多くの生徒による学校近隣の清掃活動（金蘭千里クリーンデー）を実施しました。クエストカップは、実在の企業や社会、先人を題材に答えない課題に取り組みもので、全国一四〇校、約二万五千人の小中高生が参加する大会です。本校は参加一年目で全国大会出場という快挙を成し遂げました。

今年度は、高二以下の生徒全員にiPadを導入、諸テストの追加・整理を実施、さらには英数習熟度別クラスの講座編成について、学期ごとのメンバー入れ替えを実施することにより、生徒の総合的人間力の基礎となる学力の向上を図って参ります。

以上をもって、ご挨拶とさせていただきます。